

単元名(教材名)

けがの防止 (G 保健(2) けがの防止)

本時の目標

けがの手当は、速やかに状況を把握し、大人に知らせることや適切な処置を正しく行うことが必要であることについて理解するとともに、簡単な手当を自分でできるようにする。

[G保健(2)ア(イ)]

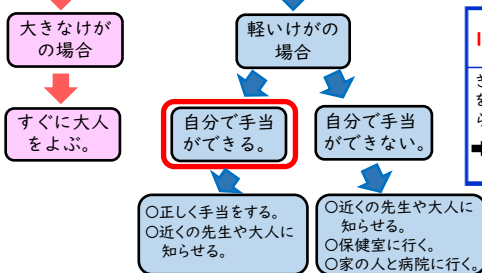
読解力向上プランVer. 2との関連

[日常的な取組・授業で、家庭で、大切にしたいこと] 正しい手順での正確な処理

	学習活動	指導上の工夫
導入	○大きなけがが起きたときの対処について確認し、正しい手当を行うことの必要性を考えるとともに本時のねらいをつかむ。	
展開	○軽いけがをしたときの自分でできる簡単な手当について調べ、手順をワークシートにまとめる。 ☆選んだけがの簡単な手当について、グループで実習を行う。	・保健室の来室記録を活用して問題意識をもたせ、けがに応じた正しい処置の仕方について確認する。 ・自分で行った手当について、手順を説明させる。残りの児童は、手当を見て三つの観点で正しい手当ができているか伝えさせる。
まとめ	○実習を通して学んだ手当を速やかに行うためのポイントやその理由をワークシートに記入する。	

☆板書例☆ <<めあて>>けがの正しい対しの仕方を知り、簡単なけがの手当ができるようになろう。

けがの種類や程度を判断する



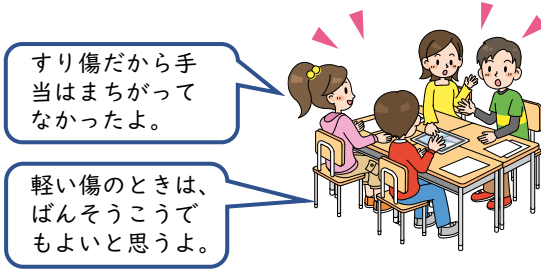
●自分でできる手当の基本

1 きず口を清潔にする きず口についたよごれや細菌を水道水などの清潔な水であらい流す。 →細菌感染を防ぐことができる。	2 圧迫して出血を止める 清潔なハンカチなどで、きず口をおさえる。 →血の流れが止まり、出血を止めることができる。	3 患部を冷やす 冷たい水や保冷剤などで冷やす。 →内出血やはれ、いたみをおさえることができる。 →やけどの進行を止めることができる。
--	--	---

☆対話例☆

(見合い学習の場面)

【三つの観点】
 ①状況に合った手当か
 ②速やかに行えているか
 ③工夫しているか



すり傷だから手当はまちがってなかったよ。
 軽い傷のときは、ばんそうこうでもよいと思うよ。

すり傷
 おにごっこで転んで左手を着いたが、左の手の平がすり傷で砂まみれだった。

- ①まず、水で洗ってよごれを落とします。
- ②次に、ハンカチなどで傷口をおさえます。

◇実践のポイント◇

本授業では、「すり傷」「鼻出血」「やけど」「打撲」などを取り上げ、実習を通して自分で簡単なけがの手当ができることを目指します。自分が行った手当について説明させることで、手当と説明内容が正しいか確認できます。また、見合い学習の場面で、手当を見て手順の漏れや間違いがないかについて説明させることで、より実践的な理解につながると考えます。

◇活用できる単元例や教材例◇

理科の実験や家庭科の調理・製作等の実習で、手順どおりに作業をしたり、手順を説明して確認したりする場面で活用できます。